

いのちの授業 児童（6年生）の感想

- ・ 今まで、死について考え、ねむれなくなったり、考えても考えてもキリがなく、ずっとなやみ続けていましたが、今回の授業で少し不安がはれました。
- ・ 病気をかかえていても、自分の目標や希望を支えることで軽快するということが分かり、自分の病気が軽快するかは自分しだいということが分かりました。手足が生まれつきない障害をもっている、あきらめずにいろんなことにがんばったら、いつか夢が見つかるということが分かりました。
- ・ 自分の余命や生まれもった役割などを考えている人や、自分は今までの人生を生きていてよかったなと思っている人がいる中で、自分はどのようにあげられるか考え心を動かされました。僕は障害をもっている人にあったら優しく接してあげられるようになりたいです。
- ・ 今回このような授業を受けて思ったことは、人は死からのがれられなく、末期などの病気をかかえている人も、一日一日を大切に生きぬいていて、かっこいいなと思いました。
- ・ いのちの授業を受けて、僕は障害を持っている人や病を持っている人でも、人には無限の可能性がある、今日一日を生き抜くんだということを聞いて、人は皆死ぬのだから一瞬を精一杯生きようと思いました。
- ・ 「いのちの授業」を受けて、病院の人たちが大切にしていることと、全人的な痛みとはなど、私たちがふだん生きている中で、病院の先生や看護師などのいりように関係する人たちがどんなことを大切にしているか、また、病人は弱い人ばかりではないことも分かり、とてもきちょうな体験をさせてもらいました。また、手足のない「チアリーダー」の「佐野有美さん」は、かわいそうなのではなく、手足のかわりに、神様から授かったものがあることも分かりました。「いのちの授業」を通して、いのちとはどんな形にも変えられない、自分たちが死ぬまであたえられつづけるしれんなのかもしれないと思いました。
- ・ 患者さんと信らい関係を築いたり、よりそったりすることで、しん察結果が変わるかもしれない、変わらなくても気持ちがだいぶちがったり、ということをお話ししてびっくりしました。また、「患者さんが歩んでこられた人生」や「患者さんが大切にしてくださった日常生活」を高宮先生たちが大切にしていることが分かりました。先生のお話を聞き、命の大切さを改めて知り、明日が来てその日をふつうに過ごすことは、当たり前ではないことが分かりました。
- ・ 私は、先生の授業を通して、命の大切さをより深く知る事ができました。生きている人一人一人に価値があって、死までの時間を大切にしようとする意識が大きく高まったと思います。死を目前にしている患者さんの不安な心によりそって、少しでも希望をあたえている所に感動し、すごいと思いました。
- ・ いのちの授業を受けて、命というものは、相手にも自分にも大切にしていきたいです。あと人とのコミュニケーションや人間の価値を学び気をつけるところなどを意識して生きていきたいです。
- ・ 命の価値というのは、障害があるかないか、才能があるかないかには関係がなく大切ということが分かりました。生きたくても生きられない人もいるのだから、限られた命のある時間を無駄にせずに、精いっぱい一日一日を過ごして生きていきたいです。
- ・ いのちの授業を受けて、緩和ケアとは、援助的コミュニケーション、人間の価値とは、がんの痛みを癒す、自分自身のケア、マインドフルネス、急な死を知る、大切に思うことができました。また、死

から生、いのちを考えることができました。

- ・ 命の大切さがわかりました。いろんな年れいの人ががんで亡くなっていて、そのなかでも印象に残った人は、小学5年生の子のお話で、たった5年でなくなってしまうと、そこで、子どもでもがんになりなくなってしまう人もいることがわかりました。でもその子は最後まで、人生や命の大切さについてわかって、なくなっていくと思います。自分の命を大切に生活していきたいです。（小児がん）
- ・ 私は、いのちの授業を受けて、いのちとは、どんな形であっても生きているということはとても喜ばしいことであり、うれしいことなんだと感じました。手足がない人も、がんがある人も皆一人一人一生懸命に生きてすばらしいと思った。残りわずかのカウントダウンも受けとめて、「死ぬのはイヤ」ではなく「残りわずかの日でどんなことをしよう」と考えていることから、障害や病気がある人も私達と同じ人間であると改めて実感しました。
- ・ いのちの授業を受けて思ったことが二つあります。一つ目は、いのちがある限り、人は生きられていろいろなことが経験することができることです。二つ目は、いのちがあっても体に障害がある人です。障害があっても、一生けん命生きるということがすばらしいと、いのちの授業で思った二つのことです。
- ・ いのちとは、とても大切なもので、病気などでもっと生きてくても生きられない人が、自死してしまっている人のいのちがほしい、ゆずってほしいなどの思いを持っていることがわかりました。また、いのちにこまっている人がいる人がたくさんいることもわかったので、これから自分のいのちをもっともっと大切に生きていこうと改めて思いなおしました。
- ・ 人間は一人一人が才能を一つか二つぐらいもって産まれてきて、そして手足の代わりに授かる人もいます。そして人間は病気などかかって落ち込んだり不安になって心がいたみます。でもそれをケアする、その人のそばにいて心によって心のケアをすることができるということがわかりました。そして、もし自分の身の近くにいる人が病気になってしまったら、自分もその人のそばにいてあげたいと思いました。
- ・ ぼくはこの授業を受けて、あたりまえのように今生きているのはきせきのものだ、ありがたいことだということが分かりました。一番印象に残ったのは佐野有美さんの手足がなくてもあきらめずに前向きな姿に感動しました。
- ・ 名言「なみだをからかわない」という名言がいいと思いました。手足がなくてもチアをやるのがすごいと思いました。
- ・ いのちの授業を受けて、命の大切さや、心の自由について知ることができました。私が印象に残った詩は、宮越由貴奈の詩です。「命はとても大切だ」「人間が生きるための電池みたいだ」「でも電池はいつか切れる」という文で、心臓を電池にたとえて詩を書いたことがすごいと思いました。「生きる」ということは、歩く、話す、見る、聞く、喜ぶ、悲しむということも詩から分かりました。
- ・ 3・4時間目の授業で「いのち」についてのことを話して、私は「手足のないチアリーダー」についてのお話がとても印象に残りました。理由は、手足がなくても「元気」と「明るさ」でみんなを笑顔にすることができ、また、チアリーダーの佐野有美さんは手足がなくてもいろいろなことにチャレンジしていて、私も見習わないと思いました。
- ・ いのちの授業を受けて、命の大切さや嬉しさが分かりました。とくにその感情を考えたのが象の背中です。分かりやすくアニメになっていたので死や生についての考えをより深めることができました。

令和3年2月12日（金）
宇都宮市立瑞穂野北小学校

この授業で生や死をもっと考えていこうと思いました。

- ・ 「いのち」の授業を受けて想ったことは、人は死を目の前にしてもあきらめずに「頑張って生きよう」「まだこれがしたい、あれがやりたい」というその一心で、行動で人生や運命をかえ、奇跡を起こせるのだと思った。また、いのちを持って生きるということは人の期待を背負うことだと思う。
- ・ 自分の命は一つしかないから大切にしていこうと思います。